



第17回 論語指導士 昴宿すばる（茨城県）

思い・報告

指導士という名に恥じています。何の活動も出来ておりません。人生の終盤を生きている私は、聖人孔子ではなく、人間孔子の人生に、おこがましくも自分の人生を重ねて『論語』を読み、学びを愉しませていただいているだけの日々です。申し訳ございません。

この度の新型コロナ禍の報道に直面した時には、「温故而知新」の次に「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず。」の言葉が脳裏をかすめました。

その後のテレビ等からは、高度な科学技術を駆使した人間社会の到来を、確かなものとして知ることになり、驚きました。

「後世畏るべし」の言葉と共に、次世代を担う若い人に伝えたい『論語』の言葉を2つ選んでみました。

- ①故きを温めて新しきを知る。以て師為る可し。
 - ②人の生くるや直たれ、之を罔くして生くるは、幸いにして免るのみ。
- そして、時代遅れの昔人間となっている自分への座右の銘としては、
- ①母意、母必、母固、母我。
 - ②天何をか言わん。四時行なわれ、百物生ず、天何をか言わんや。

田舎の片隅に暮らす一介の老人ですが、空しく老いることなく、精進いたします。

「加地伸行からの百字答礼」

昴宿すばる様へ

時代遅れの老人-----それでいいではありませんか。

私も時代遅れですが、遠い昔に生まれました古典を読み、その間、数先年を自由自在に往復の生活を楽しんでいます。

それは時代遅れどころか、時代の最先端の若者ですよ。